

経営比較分析表（令和3年度決算）

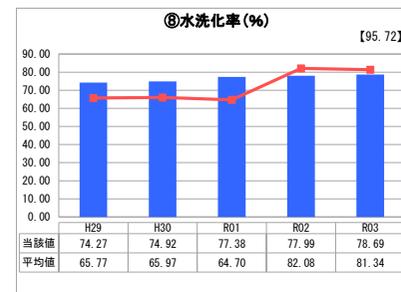
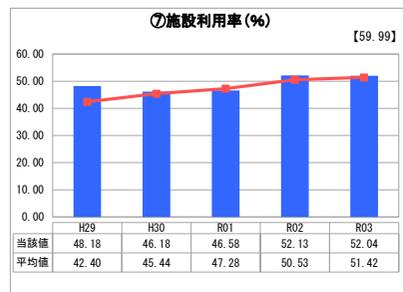
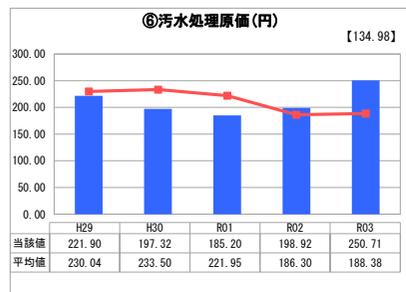
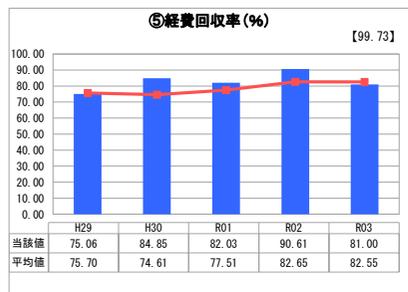
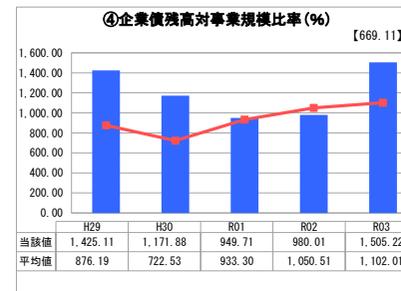
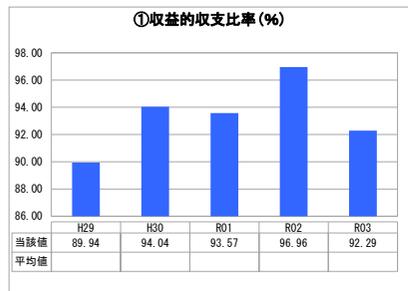
佐賀県 多久市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	下水道事業	公共下水道	Cc2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	該当数値なし	31.52	93.96	3,960

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
18,569	96.56	192.31
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
5,800	2.30	2,521.74

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 令和3年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①収益的収支については、昨年度比率に対して、下降している状況である。原因としては、施設修繕に多額の費用がかかったためであり、今後は改善に向けて取り組む必要がある。

④企業債残高対事業規模率については、前年度と比較すると大幅な増となっている。原因としては、一般会計負担額が一時的に大幅減となったためと考える。類似団体平均よりも大幅に上回っている状態にあるので、改善に向けて取り組む必要がある。

⑤経費回収率については、令和2年4月の使用料改定や使用料の収納事務を改善したことにより、徴収率は改善しているが昨年度と比較して減となっている。今後も回収率100%に向けて取り組む必要がある。

⑥汚水処理原価については、前年度より増となっている状態である。増の要因としては、突発的な施設の修繕に伴い、汚水処理費の増によるものと考えられる。今後も汚水処理に係るコストを抑えるよう取り組む必要がある。

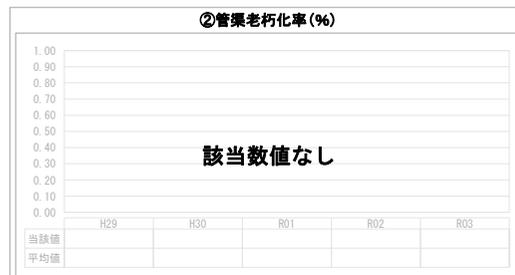
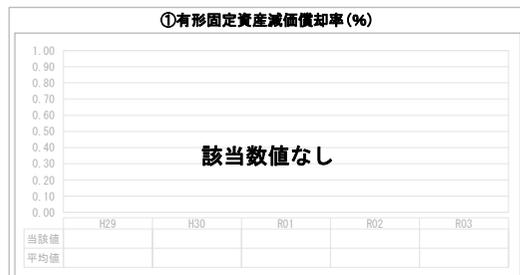
⑦施設利用率については前年度比に対して、横ばいとなっている状態にある。施設利用率を上げるため、接続戸数を増加させる取り組みが必要である。

⑧水洗化率については、現在も下水道区域の見直しを行いながら水洗化の促進を行っているが、類似団体平均値より低い状態であるため、更なる水洗化率の向上に取り組む必要がある。

2. 老朽化の状況について

平成17年度からの供用開始であるため、法定耐用年数を超える管渠は該当無しとなっている。管渠の点検については、必要に応じて実施している。

2. 老朽化の状況



全体総括

汚水処理に係る費用を使用料以外の一般会計繰入金等に依存している状況にある。令和元年度より事務事業の効率化を図り、令和2年4月より使用料単価の改訂を行いながら、健全な経営を目指している。今年については、施設の修繕に多額の費用を要したため、分析表の一部に影響がみられる。今後想定される老朽化対策については、長寿命化計画を策定し、計画的に実施していく必要がある。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。